

「あらかわの心」ニュース



第8号 平成21年3月16日発行

〔発行〕「あらかわの心」推進運動区民委員会
 〔事務局〕〒116-8501 荒川区荒川 2-2-3 荒川区子育て支援部児童青少年課内 TEL 3802-3111 内線 3833 FAX 3802-0809
 〔メールアドレス〕 arakoko@city.arakawa.tokyo.jp 〔ホームページアドレス〕 http://www.arakawa-unet.jp/life/heart/index.html

子どもたちの安全を

見守っています

「あらかわの心」推進運動では、あいさつ・きまり・思いやり・体験・見守りの5つを「心をつなぐ5つの取り組み」として推進しています。今号では、このうちの「見守り」に関連した区の施策及び地域での活動をご紹介します。

「スクール安全ステーション」

区では、平成20年度にモデルとして汐入小・第二峡田小・尾久西小・第五峡田小・第六日暮里小の5校に設置した「スクール安全ステーション」を、平成21年度中に他の全区立小学校に設置します。「スクール安全ステーション」は原則として、児童の登下校を見渡せる校門付近に設置し、開校時間に児童安全推進員等が常駐し来校者を確認するなど、学校の安全を確保する拠点として活用します。

このうち、モデル設置された尾久西小学校では、「スクール安全ステーション」を拠点として、独自の「見守り」活動を展開しています。尾久西小学校の加藤謙二副校長にお話を伺いました。

多くの大人の目で見守りを…

「7の付く日パトロール」

「本校では、6月以降、毎月7の付く日にパトロールをしています。学校と保護者、時には、スクールサポーターや尾久警察の署員も参加します。公園、通学路、駄菓子屋など子どもが集まる場所、人目に付きにくい危険な場所などを見て回るのです。毎回10人ほどの大人が巡回途中で出会う子どもたちにも声をかけ、安全を呼びかけます。それを素直に聞いて



▲尾久西小「スクール安全ステーション」開所式にて

てくれる子どもたちであることがうれしいです。平成17年度から始まりましたが、「この地域では、大人が子どもの安全のために見回りをしている」とアピールすることが大切なねらいの一つです。

こうした活動が実現できる保護者・地域に感謝します。そして、今後も子どもが安全であるように見守りを続けていきたいと思えます。」

「スクール安全ステーション」を活動拠点として、今後とも地域全体で児童を「見守り」取り組みを進めていきたいと思います。

アンケート集計結果

①回答数

●男性(82名) ●女性(126名) 計208名

②今回の講演会の内容の中で、参考になったことは

- 江戸しぐさの本質
- 子育ての心得、親が見本を見せる子育て
- 人間は世のため、人のために
- あいさつと「世辞」
- 江戸町民の感性、心構え、センス
- 異文化との共生
- 「明日備」、「結界覚え」、「時泥棒」
- 「いき」と「粋」のちがひ
- 「傍(はた)楽(らく)」がボランティアにつながる
- 江戸しぐさとは教養
- しぐさとは「思草」、思いやりの文化
- いなかっとは
- 「かさかしげ」などのパフォーマンス
- 人のるつぼのあつれきを防ぐために江戸しぐさできた事

③意見・感想

- 江戸しぐさは、人間としての基本的な生きる姿勢だと思ふ
- 落語の理解に役立った
- 挨拶は上位者からということを痛感した
- 話が具体的で楽しかった
- 機会があったらまた聞きたい
- ことばの解説がよかった
- レジュメがわかりやすかった
- 江戸っ子に近づきたいと思った
- 忘れていたことを思い出した気がした
- 江戸しぐさは、子や孫に伝えてゆきたい日本の美しい心と思ふ



▲越川禮子氏



1月18日、日暮里サニーホールにおいて「あらかわの心」推進運動区民委員会の主催による「江戸しぐさ」講演会が開催されました。講師は、NPO法人江戸しぐさ理事長の越川禮子氏で、403名の方々が参加されました。



「江戸しぐさ」講演会 実施報告

消防少年回は楽しいよ!

12月23日、尾久消防少年団

(西川千恵子団長)は、クリスマス会を開催しました。荒川西ライオンズクラブから寄贈された「あらかわの心」カルタでカルタ大会が行われたほか、荒川区体育指導委員会のみなさんの指導のもと、キンボールを体験しました。この会には、「あらかわの心」カルタの絵を担当した荒川商業高校の生徒のみなさんも参加し、クリスマス会のひと時を一緒に楽しみました。



▲高校生のお姉さんたちと一緒にカルタ大会をしたよ

また、1月6日、荒川消防少年団(寺島稔団長)は、東京消防出初め式の祝賀パレードに参加しました。

寒さ厳しいなか荒川消防少年団旗を手に、隊長が堂々と行進をし、隊員2名が小旗を振ってそれに続きました。ほかの団員も、迫力ある部隊行進や江戸消防記念会のはしごのりを間近に見学し、今年も消防少年団活動を頑張ろうと団員一人ひとりが気持ちを新



▲都内の消防少年団が大集合しました

キンボールで心と体を鍛える

2月1日荒川総合スポーツセンター大ホールにおいて第二回あらかわ杯キンボール大会が開催されました。オープン大会のため区内・外から66チーム約400名の参加があり、石川県、愛知県、神奈川県、千葉県からもたくさんのお客さんが集まりました。

4人でボールを支え、ヒットとキャッチを繰り返すこの競技はチームワークがとても大切で、敵も味方も相手を「思いやる」気持ちが必要なポイントになります。ゲームはクラス別になってはいますが、小学生から大人まで一つの会場の中で



熱戦が繰り広げられるという、他の競技にはないスタイルで行われます。当日は、子どもから大人へのかわいい声援、子どもの好プレーに感心する大人のため息、大学生の見事な技に驚きの声や大きな拍手であふれていました。遠くからキンボールをするために荒川区へおいでいただいた方々と、温かくお迎えしてくれた区内の仲間たちに心から感謝して、あらためてキンボールのすばらしさを感じた一日でした。

(荒川区キンボール連盟)

子どもたちの環境浄化活動への参加

日暮里地区の小中学校では、以前から各校ごとに地域清掃活動を行っていましたが、6年前から「おそうじし隊」「あいさつし隊」「レンジャー隊」といった名称で児童の地域活動が始まりました。その活動のひとつが、毎月20日に行われている駅前での環境浄化への参加です。

学校や保護者の協力のもと、第一日暮里小は西日暮里駅前、第二日暮里小・ひぐらし小は日暮里駅前、第三日暮里小・第六日暮里小・諏訪台中はそれぞれ近隣地域で、町会や各団体の大人達と一緒に清掃活動を続けています。子どもたちはこういった地域の人達とのふれあいの中で様々なことを感じ、学び、地域への愛着も育っています。ゴミで大きく膨らんだ袋を持ち、集合場所に戻ってくる子どもたちの瞳は街をきれいにした喜びで輝いています。



▲日暮里駅前をおそうじしました

みなさんも、もし、そんな子どもたちを見かけましたら、「ご苦労様」「きれいになったネ」「ありがとう」との声をかけてください。きっと嬉しそうな子どもたちの笑顔が返ってくると思います。

(青少年対策日暮里地区委員会 櫻井)

「ドロケイ」ルールづくり挑戦!

「中高生リーダー宿泊研修」が、国立オリンピック記念青少年総合センターにて12月27日から1泊2日で行われました。これまで、リーダーの資質を高めるため、ゲームや遊びを通じた研修を行ってきました。今回は、新たなシニアリーダーへ呼びかけるため「ドロケイ」を取り入れられました。

「ドロケイ」とは、泥棒チームと警察チームの二手に分かれて行う鬼ごっこです。研修に参加した中学生・高校生のリーダーは、この「ドロケイ」について深く探求した結果、様々なルールがあることが分かりました。この「ドロケイ」を区内の小学校へ広げ、多くの子どもたちに楽しめるように、あらたな「ドロケイ」のルールづくりや改良を試みました。その結果としてリーダーたちは、一つのイベントを考え、つくり上げていく喜びと難しさを肌で感じた2日間でした。



▲「ドロケイ」で遊ぶ子どもたち

クレインボー子ども会のクリスマス会!

毎年恒例のクリスマス会。今回の参加者は子どもが24人、大人が19人でした。大人が子どもと一緒に、楽しく参加するところがクレインボー子ども会の良いところです。

ペーパークラフトでクリスマスツリーを作った後は、揃いのバンダナを頭に巻いてケーキ作りに挑戦。できあがったカラフルなケーキは、いつも廃品回収に協力してくださっている地域の皆様におすそ分けしました。にぎやかな笑い声に心弾むひとときでした。



▲みんなでケーキ作りに挑戦

(クレインボー子ども会 木下)